

発行日 2016/8/9

社会福祉法人生活クラブ
柏市地域生活支援センター
あいネット
〒277-0004
柏市柏下65-1
ウェルネス柏内
電話: 04(7165)8707
FAX: 04(7165)8709

目次	
中核地域生活支援センター大会in2016	1
柏市地域生活支援センター連絡調整会議	2
第4回 鎌ヶ谷精神医療研究会	2
就労準備支援室より	3
お知らせ	4

ひとこと

お盆は、「命のつながりを私たちに与えてくれたご先祖の霊を迎えて、感謝の気持ちを伝える日」だそうです。こころ穏やかに迎えたいですね。



中核地域生活支援センター大会 in2016

7/11（月）千葉市生涯学習センター2階ホールにて開催されました。テーマは「自立を育む地域社会を考える～子供たち・若者たちの声、聞こえていますか～」です。

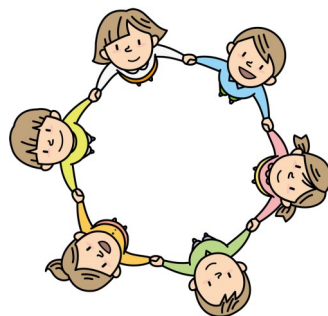
午前中は札幌市を拠点に若者の居場所づくりを展開する日置真世氏とFFP（フレームフリープロジェクト）の若者たち※1による基調講演が行われました。FFPの若者たちはそれぞれ精神疾患や発達障害を抱えたり、家庭の貧困により不登校や児童養護施設で育つなど、自治体の支援を受けながら育ったものの、その一方で支援を受ける側としての「違和感」がぬぐえなかったそうです。壇上で若者たち一人一人が支援者に対して感謝の言葉を口にするものの、支援者の法制度にのっとった杓子定規な対応や支援者が上、支援されている者は下という主従的關係、熱心すぎて支援される側が取り残されてしまうような気分になる支援に傷ついてきたという報告がありました。

聴衆はほとんどが支援者だったので、支援を受けてきた側の生の声を聴くことができる良い機会でした。

午後は中核地域生活支援センター白書の報告の後にシンポジウム「私たちに出来ること」というテーマで千葉県内の児童養護施設、障害者高等技術専門学校、こども食堂の関係者をパネリストとしてお迎えして活発な意見交換が行われました。

各パネリストに対して午前中登壇した若者の一人より「仕事をする上での原動力はなんですか」という質問に対し、児童養護施設の関係者が答えた「子どもたちが育っていった姿が原動力。ただ、その成果を見ることが出来るのが10年、20年後とえらい先の話なのですが」という回答が印象的でした。また日置氏が最後に伝えたいこととして「今の支援に手ごたえがなくても、子供たちは『大人が自分の為になにかをしてくれた』という記憶が蓄積されていつか花開く。みんなが「ちょっとずつ」なにかをすることが大事である」というメッセージを残してくださいました。

※1「若者」という表現は日置氏が使用するFFPのメンバーの呼称であり、FFPに参加する際の年齢制限はない（日置氏談）。



柏市地域生活支援センター 連絡調整会議



平成28年7月21日（木）に、柏市地域生活支援センター連絡調整会議が開催されました。

この会議は、柏市より事業の業務委託を受けている柏市地域生活支援センターあいネットと、柏市の関係機関とが相互に連携を図り、当該事業を効果的に行う目的で、年2回、毎回違うテーマを設けて開催されているものです。

まずは、平成27年度柏市地域生活支援センターの事業実績や、事業の総合評価結果などについて報告がありました。次に、新規相談者の増加に向けての取り組みについて、あいネット所長の白田より報告がありました。相談者数は年々増加傾向にはありますが、今後ますます相談につながりやすくしていくためにはどのような工夫が必要かなどについて、参加された関係各機関の皆様からもたくさんのご意見をいただくことができました。あいネットの広報や周知とともに、市役所への出張相談や電話相談をしやすくするための提案をしていただきました。今後の事業運営に活用していきたいと思えます。

第4回 鎌ヶ谷精神医療研究会

2016年7月2日（土）15：00～18：00 鎌ヶ谷市総合福祉保健センターにて開催された、第4回鎌ヶ谷精神医療研究会に参加してきました。この会は、医療法人梨香会 秋元病院の主催で、東葛地域の精神保健福祉の各関係機関に案内されていて、病院をはじめ様々な機関の方たちが参加されていました。

まずは、一般公演Ⅰ「実地に役立つ向精神薬の使い方」というテーマで、秋元病院の牧野吉真先生よりご講演がありました。テーマは薬の使い方となっていますが、薬物治療だけではなく心理社会的なリハビリテーションとしての集団精神療法などについてもお話がありました。病状等の影響により引きこもりがちな患者さんたちと、リカバリーを目指しながら集団での活動を行っていくお話は興味深かったです。そういった活動の一環として、たくさんのパウンドケーキを作って下さり、今回の参加者に配布していただきました。ケーキ自体のお味はもちろんの事、役割や責任を持つということの大切さや、そういったことがリカバリーにつながっていくということを教えていただき、格別のおいしさを感じられました。

次に、一般公演Ⅱ「つばさクリニックの訪問診療」というテーマで、つばさクリニック院長の宮崎和紀先生よりご講演がありました。つばさクリニックはACT（アクト）という精神科の訪問チームを行っています。重症の方を対象に医療支援のみならず生活支援も積極的に行い、自分の住んでいる地域でいきいきとした生活が出来るように応援していらっしゃいます。2013年9月に開設して以来、次々に新規のご相談や依頼が来るとのことで、ACTや精神科訪問診療のニーズは高いと話されていました。そういったことに取り組む医療機関がどんどん増えてほしいと思います。

最後に、特別講演「当事者活動支援を重視した地域精神医療の体験」というテーマで、医療法人薪水浦河ひがし町診療所院長の川村敏明先生よりご講演がありました。北海道浦河町での“べてるの家”の活動について、ユーモアを交えながら楽しいお話を伺う事ができました。「川村先生のおかげです」と感謝するような関係の患者さんは、あまり回復せず、いろいろな支援者や仲間と出会うことができ、主治医への依存度の低い人ほど回復するというお話は印象深かったです。病気の人という捉え方ではなく、いろいろな人となつなかりを持って生活をしている人という視点の大切さを感じました。病気を抱え苦しんで閉じこもっているばかりでなく、いろいろな人や機関とつながりをもてるように、こういった会を通じて考えていくことが大切と思われました。



あいネット就労準備支援室より

就労準備支援室からは、就労についての情報をお届け致します。講座にもぜひご参加ください



免許・資格の書き方は？No.12-3

履歴書は手書き？パソコン？どちらが有利？

webでも賛否両論あるようです。ライフネット生命保険株式会社(リサーチ結果報告：2013年1月15日)によると、手書き作成した履歴書での応募とパソコンで作成した履歴書での応募では、「どちらにも差はない」が68.3%と最も多かったものの、ついで「手書きが有利」が28.7%、「パソコンが有利」は3%に過ぎませんでした。「どちらにも差はない」が大半を占めていますが、中には「手書きの方が良い」という人事もいる、ということですね。迷ったら、ハローワークや応募する企業さんに、パソコンでもよいか確認するのが良いでしょう。

上手に治療を受けるには No.10

早期の治療と再発防止が大切？

こころの病気は、早期の治療が重要です。早期に治療することで、重症化や慢性化を減らすことができます。

こころの病気は、短期間に治癒する場合がありますが、ある程度の期間が必要な場合が少なくありません。また、一度良くなっても再発することがあります。再発をくりかえすと、いっそう再発しやすくなるので、再発を防止することがとても重要です。そのために、少し良くなったと思っても、しばらくの間は薬物治療や精神療法などを十分な期間続ける必要があります。また、再発が疑われた場合は、早めに受診することが重要です。

今月の講座案内

講座受講希望の方は日程調整いたします。ご連絡ください。

コミュニケーション講座

面接の模擬をしたり、気持ちが楽になるコミュニケーションの方法をお伝えします。ワークを通してスキルを高めましょう！

キャリア講座

自分を振り返りながら、仕事についても考えてみましょう！

パソコン講座

Word・Excelを通してパソコンの基本的な操作を覚えられるようお手伝いします。マンツーマンが基本ですので、ご自分のペースで練習する事ができます。

職場体験

ディサービス「あじさい」で高齢者が自立した生活ができるようお手伝いをします。車で送迎します。昼食代500円頂きます。

この講座は、生活困窮者自立促進支援法に基づく支援を利用されている方に向けてのプログラムです。対象ではない方で利用希望の方は電話でご相談ください。



お知らせ

こちらのコーナーへ掲載希望の方はあいネットまで
(TEL：04-7165-8707 FAX：04-7165-8709)



私たちができる支援を考える会



～子どもたちの未来のために～

「子どもの貧困というけれど、そもそもそれってどういう状態？」
「虐待のニュースをテレビで見ることはあるけど、身近でそんなことが起こっているとは見たことも聞いたこともない」
「近所に気になる子がいるけど、どう関わればいいのかわからない」
「最近ニュースで取り上げられている、子ども食堂って何？」
「自分にも何かできるといいなと思うけど、何をすればいいのか具体的に思い浮かばない」

まず、子どもたちの現実を知る。
そして、自分に何ができるのかを、一緒に考えてみませんか？

日時：平成28年9月3日(土) 10:00～13:00 (受付開始 9:30～)

会場：柏市青少年センター (柏市十歳二313-92)

参加費：1,000円 (当日受付にてお支払いください)

定員：100名 (先着順)

内容：基調講演

『子どもの貧困～総合相談の現場から見えてきたこと』

中核地域生活支援センター「がじゅまる」センター長 朝比奈 ミカ氏

シンポジウム

『私たちにできること～それぞれの現場から』

山下 敏雅 氏 (永野・山下法律事務所弁護士)

高橋 亮 氏 (こがねはら子ども食堂代表)

佐藤 雅大 氏 (学習支援事業ボランティア学生講師)

高木 絹代 氏 (柏市地域健康づくり課課長)

朝比奈ミカ 氏 (中核地域生活支援センター「がじゅまる」センター長)

申込み：メール・電話・ファックスのいずれかの方法でお申し込みください。

8月21日(日)締め切り

氏名/所属(任意)/電話番号/メールアドレス/住所を必ずご記載ください

※申し込みの際にいただきました個人情報につきましては、この学習会にのみ使用いたします

申込先：メールアドレス puranet.kashiwa@gmail.com

電話・ファックス 04-7163-6331 (平日10:00～17:00)

呼びかけ人：学習・療育塾のじゃ塾/Grow Up Support 代表 野崎 美保

共催：柏市地域生活支援センターあいネット 白田 東吾/永桶 静佳

司法書士・臨床心理士による 共同無料相談

「こころ」と「いのち」と「おかね」の相談会

日時：平成28年9月14日(水) 午前10時から午後3時まで

会場：我孫子市役所西別館 2階相談室A

費用：相談無料

秘密厳守

事前予約が必要です。下記までご連絡ください。

主催：千葉司法書士会 電話043-246-2666 (9:00～17:00 日曜・祝日除く)

